

H27. 1. 31

金子さん「死後のプロデュース」



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内
 科入局。平成7年、尼崎市で「長
 尾クリニック」を開業。外来診療
 から在宅医療まで「人を診る、総
 合診療を目指す。医学博士。近著
 「平穏死・10の条件」「胃ろうと
 いう選択、しない選択」はいずれ
 もベストセラー。関西国際大学、
 東京医科大学客員教授。56歳。

金子哲雄さんというタレン
 トを覚えているでしょうか。
 いつもテレビで「上手な値切
 り方」などの楽しいおしゃべ
 りで和ませてくれていた方だ
 す。哲雄さんは平成24年10月
 2日、41歳の若さで肺カルチ
 ノイド(肺がんと似た肺の悪
 性の病気)という病気のた
 め、自宅で旅立たれました。
 その報道に接したとき、
 「41歳という若い人がなぜ自
 宅で亡くなったんだろう？」
 普通は病院なのに」と思いま
 したが、その1年後、最後の



「生と死」シリーズ⑥

死は終わりではなく「通過点」だ

場所)自宅を選んだ理由がわ
 かりました。
 ある日、哲雄さんの奥様の
 稚子さんに会いました。それ
 までご夫妻ともに一面識もな
 かったのですが、稚子さんか
 ら「お願いがある」と言われ
 ました。「主人の一周忌に、
 長尾先生の本にサインをして
 ほしい」と。聞くと、哲雄さ
 んは当時、ベストセラーにな
 っていた拙書「平穏死・10の

条件」(ブックマン社)を愛
 読していたに及び、その
 内容のとおりに行われてい
 たとのことでした。特に私が
 くりかえし書いた「生きるこ
 とは、食べる」というフレ
 ーズを気に入っていただけ
 き、病気が進行して徐々に食
 が細っても、たびたび友人
 たちを自宅に招きホームパ
 ティーを開いていたそうで
 す。
 焼き肉パーティーをした
 り、餃子パーティーをした
 り、最期の夜は日本一おいし
 いとされる京都のラーメンを
 みんなで食べたとのことだ
 した。衰弱した哲雄さんは、麵
 を2、3本しか食べられなか
 った

ましたが、会場に入ってピッ
 クリ。そこはディスコか、に
 ぎやかな宴会場かという場所
 でした。たぐさんのテレビ画
 面から哲雄さんの爆笑映像が
 流れている。会はず雄さんが
 まだ生きているものとして開
 かれていたとのこと。だから
 友人・知人は「哲ちゃんは今
 あ…」と、まるで哲雄さんが
 今も生きているかのように話
 されました。会の終わりに奥
 様は「主人は今も皆さまにご

迷惑をおかけして」とお札を
 述べ、参加者は「ご主人さま
 によりしくお伝えください」
 とあいさつして帰られました
 た。哲雄さんは社会的にはま
 だ生きておられたのです。
 哲雄さんがすごいのは、死
 の周辺、すなわち終末期医療
 や葬儀、お墓や財産の整理な
 どの「終活」だけではなく、
 死後1年のイベントや、5年
 後、10年後の仕事までもちゃ
 んと計画して奥様に託されて
 いたことです。

つまり、やろうと思えば自
 分の死後のプロデュースもで
 きることを身をもって示した
 のです。1年後に稚子さんは
 「死後のプロデュース」とい
 う本を書かれました。死は決
 して終わりではなく、通過点に
 なります。哲雄さんは人とし
 ての生き方、逝き方につい
 て、今も多くのメッセージを
 発しておられます。寒い夜、
 ご夫妻の書籍を何度も読み返
 しては、自分自身に置き換え
 て考えています。

金子哲雄 流通ジャーナリスト、タレント。
 平成23年に肺カルチノイドが発覚した後も、病
 気を隠しながらメディアの仕事が続けた。ある時点か
 らがん治療を止めて在宅医療に切り替え、在宅緩和ケ
 アを受けながら24年10月に死去。享年41歳。